審査の流れ

正 員 佐藤 之彦*

Accreditation Procedure

Yukihiko Sato*, Member

The procedure and method of accreditation and examination of the educational accreditation system of Japan Accreditation Board for Engineering Education (JABEE) are summarized. In particular, the self-inspection report and on-site examination for the accreditation process are explained.

キーワード：日本技術者教育認定機構，認定審査手順，自己点検書，実地審査

Keywords : Japan Accreditation Board for Engineering Education, procedure and method of accreditation and examination, self-inspection report, on-site examination

1. はじめに

JABEE の認定審査においては、当該教育プログラムが日本技術者教育認定基準（以下、認定基準という）を満足していることを、教育機関側が証拠を提示して審査チームに納得させることが求められる。この認定審査を実施あるいは受審する際のマニュアルとして「認定・審査の手順と方法」⁽²⁾と「自己点検書作成の手引き」⁽³⁾が作成され、JABEE のホームページ⁽¹⁾等で公開されている。本稿は、これらのマニュアルの 2002 年度版に基づいて、審査の流れについて解説するものである。なお、JABEE の審査・認定のマニュアル類は、まだ確立途上のものであり、当面は継続的な改訂が実施される。したがって、常に最新版のマニュアル類を参照していただく必要があることに留意されたい。

2. 審査の流れ

前述のように、JABEE における認定・審査は、審査対象教育プログラムが認定基準を満足していることを、証拠を提示して審査チームに納得させる行為である。このための具体的作業として、教育機関側が作成して提出する文書である自己点検書およびその関連資料による審査と、審査チームが教育機関に実際に出向いて実態の検分を行なう実地審査を実施する。これらを中心とした審査全体の流れを、「認定・審査の手順と方法」の記載に従って時系列的にまとめると以下ようになる。

(1) 認定を希望する教育機関から JABEE への文書による認定申請が提出され、審査が開始される。

(2) JABEE は、認定分野と審査チーム派遣機関を決定し、審査を審査チーム派遣機関に委託する。

(3) 審査チーム派遣機関は、審査チームの審査長、審査員を選定し、これを JABEE が任命する。また、審査チーム派遣機関および JABEE は、審査長および教育機関の承諾を得てオブザーバを加えることができる。

(4) JABEE は、教育機関に対して、認定分野、審査チーム派遣機関、審査チーム構成を通知し、審査関係書類を送付する。教育機関は、審査チーム派遣機関および審査チーム構成員が不適格であるとの正当な理由があれば異議を申し立てることができる。

(5) 審査長は、教育機関と審査日程等を打ち合わせる。

(6) 教育機関は、自己点検書および関連資料を審査チーム派遣機関に送付する。また、自己点検書を JABEE に送付する。

(7) 審査チームは自己点検書を審査し、疑問点等に関して教育機関とやり取りを行う。

(8) 審査長は、教育機関と相談して実地審査の日程を決定する。

(9) 審査チームは、実地審査を行い、その審査結果をプログラム点検書にまとめ、総括報告文を作成する。実地審査最終面談時に、プログラム点検書を教育機関に手渡すとともに、総括報告文を読み上げる。教育機関は、プログラム点検書に事実誤認等がある場合は、審査長に申告（事後申告という）する。

(10) 審査チームは、自己点検書の審査結果、実地審査での審査結果および教育機関からの事後申告を総合的に勘案して、一次審査報告書を実地審査後 4 週間以内に作成し、審査チーム派遣機関を通して、教育機関、当該分野審査委員会および JABEE に送付する。

* 千葉大学工学部
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33
Faculty of Engineering, Chiba University
1-33 Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba 263-8522

(11) 教育機関は、一次審査報告書受領後4週間以内に、一次審査報告書の記載事項に対する異議申立てや指摘事項に対する改善計画書を、審査チーム派遣機関を通して審査長に提出することができる。

(12) 審査チームは、上記(11)の異議申立てや改善計画書をも勘案して二次審査報告書を作成して、審査チーム派遣機関を通して、当該分野審査委員会とJABEEに提出する。

(13) 当該分野審査委員会は、当該分野における全受審プログラムの二次審査報告書を審議・調整して分野別審査報告書を作成し、JABEEに提出する。

(14) JABEEの認定・審査調整委員会は、全分野の分野別審査報告書を審議・調整して、最終審査報告書と認定可否案を作成し、JABEE認定委員会に提出する。

(15) JABEE認定委員会は、JABEE認定・審査調整委員会からの最終審査報告書と認定可否案を審議して、認定の可否を決定し、JABEE理事会の承認を得る。

(16) JABEEは、認定の可否を、最終審査報告書に添えて、教育機関、分野別審査委員会および審査チーム派遣機関に通知するとともに、認定可とされたプログラム名を社会に公表する。審査チーム派遣機関は、審査チームに対し認定の可否とその理由を通知する。

(17) 非認定の通知を受けた教育機関は、通知受理後3ヶ月以内に理由を付してJABEEに不服申立てを行うことができる。不服申立てに対しては、JABEE提訴委員会が精査し裁定を下す。裁定結果は、教育機関、分野別審査委員会および審査チーム派遣機関に通知する。審査チーム派遣機関は審査チームに裁定結果を通知する。なお、この裁定は一事不再理である。

3. 自己点検書と実地審査

前述の認定審査の流れの中で、プログラム側が認定基準(分野別要件も含む)を満たす教育を実施していることを確認するための審査手段として、自己点検書と実地審査がある。以下、認定審査における重点チェック項目と、自己点検書および実地審査について概要を説明する。

〈3・1〉 **認定審査における重点チェック項目** プログラム認定の可否は、認定基準のすべてを満たしているかどうかで判断されるが、認定基準の中でも以下の事項については特に重点をおいて審査される。したがって、自己点検書作成や実地審査においては、以下の点を満たされていることが確認できるよう、特に留意する必要がある。

① プログラムが保証する修了生の知識・能力等として適切な学習・教育目標が設定されているか。

② プログラムは、自己点検書や学則、シラバス、パンフレット等に記載されたとおりに実施されているか。

③ プログラムの修了生全員が設定したすべての学習・教育目標を社会の要請する水準以上で達成しているか。

④ 教育の継続的改善システムは機能しているか。

〈3・2〉 **自己点検書** 自己点検書は、プログラムが認定基準を満たしていることを説明するために教育機関が作

成する文書である。これは、認定審査の目的で作成されるものであるが、その作成過程で当該プログラムの問題点が明らかになるため、教育機関側がプログラムの改善に役立てることも意図されている。また、これまでの試行審査において、自己点検書および関連資料の分量が膨大となる例が報告されることがあったが、2002年度より、引用資料および裏付関連資料をも含めて厚さ60mm以内とし、一括してファイリングすることが求められている。このため、限られた紙面に必要な情報を効果的に盛り込むことが要求されている。

自己点検書の構成 自己点検書の書式⁽⁴⁾(MS・Word形式)はJABEEホームページで入手可能であり、受審する教育機関は、これをダウンロードして必要事項を書き込むことにより自己点検書を作成する。本稿では、紙面の都合により、自己点検書の書式の詳細には触れないが、その大まかな構成は以下のようになっている。

1. プログラム情報
2. 自己点検結果

参考資料

「1. プログラム情報」は、高等教育機関名、プログラム名、学位名、連絡先などを記載するものである。「2. 自己点検結果」の冒頭には、認定基準の各項目の点検結果を5段階評価して総括する自己点検表があり、これに続いて認定基準の各項目ごとに自己点検結果の記述とその証拠となる引用・裏付資料を添付する構成となっている。なお、点検項目によっては表形式による記入欄が設けられている。「参考資料」は、教員個人データと、授業科目ごとの学習保証時間および学習・教育目標の各項目に対する関与の程度を総括する参考付表である。

認定基準の各項目に対する記述上の留意点 認定基準の各項目に対する点検結果の記述にあたっては、それぞれの項目が認定基準を満足していることを必要な資料を示して説明することが求められる。また、それぞれの点検項目に対する説明は、他の点検項目に対する説明を参照しなくても判断できるように自己完結形にすることが望ましく、必要があれば同じ資料を複数の点検項目で何度も添付してよい。また、添付する引用・裏付資料の中にある情報は、必要な部分を適切な形で引用・参照するなどの工夫が必要である。なお、第三者機関により十分審査されていると判断される点検項目と認定基準については、関係資料を提示することでJABEEによる審査を省略できる。

〈3・3〉 **実地審査** 以上で述べた自己点検書では証明の困難な事項については、審査チームが受審校に出向いて行う実地審査によって確認・審査する。標準的なケースでは、実地審査は、前日夜の現地での審査チーム打ち合わせに続いて、2日間にわたって実施する。この実地審査における代表的な点検項目は、以下のとおりである。

- (1) 教材、作品、試験問題と解答(追試等も含む)、卒業論文、実験レポート等の審査
- (2) 当該教育機関によって解釈・評価された資料の詳細

な調査

- (3) 学習・教育の量の実態調査
- (4) 教育手段および教育環境の実態調査
- (5) プログラム対応責任者、教職員、学生、卒業生などとの面談
- (6) 分量の制約等で添付できなかった裏付資料等の確認

4. おわりに

本稿では、JABEE の認定審査における審査の流れについて、その概要を解説した。JABEE のシステムは確立途上のものであり、今後も継続的に改善が行われていく。したがって、JABEE ホームページや電気学会技術者教育認定制度検討委員会のホームページ⁽⁵⁾等で提供される情報に対し、日頃より関心を寄せていただきたい。

(平成 14 年 9 月 20 日受付)

文 献

- (1) “Japan Accreditation Board for Engineering Education”, <http://www.jabee.org>, JABEE ホームページ
- (2) “Guidelines for the Selection and Formation of Examination Team, Accreditation criteria and Procedures, Japan Accreditation Board for Engineering Education”, <http://www.jabee.org>
「日本技術者教育認定制度 認定・審査の手順と方法 2002 年度版」, JABEE ホームページ
- (3) “Guide to Preparing Self-Inspection Report 2002, Japan Accreditation Board for Engineering Education”, <http://www.jabee.org>
「自己点検書作成の手引き 2002 年度版」, JABEE ホームページ
- (4) “Self-Inspection Report 2002, Japan Accreditation Board for Engineering Education”, <http://www.jabee.org>,
「自己点検書 2002 年度版」, JABEE ホームページ電気学会技術者教育認定制度検討委員会ホームページ
- (5) “IEEJ, Committee for JABEE”, http://www.iee.or.jp/eng_edu/
電気学会技術者教育認定制度検討委員会ホームページ

佐 藤 之 彦

(正員) 1963 年 9 月 3 日生まれ。1986 年東京工業大学工学部電気・電子工学科卒業。1988 年同大学大学院修士課程電気・電子工学専攻修了。1988 年より、同大学工学部電気・電子工学科助手、助教授を経て、2001 年 10 月より千葉大学工学部電子機械工学科助教授。博士(工学)。電気機器、パワーエレクトロニクス関係の教育・研究に従事。